



インドの旅

只今、旅行で1か月弱、インドに来ています。インドを訪れるのは初めてなので、見るもの、肌で感じるものすべてがとても刺激的です。何よりも嬉しいのが、物価が驚くほど安いということ、美味しいカレーを毎日食べられることです。インド西エリアのゴアから中型自動二輪（ずっと乗ってみたかったエンフィールドのクラシック350cc）をレンタルして、海岸線を南に下っています。

そんな中、「えっ?! そんなのあり?!」という場面に1日数回出会います。みなさんも、おそらくツアーをなさっていたら、色々な劇場で「えっ?!」ということがよくあると思います。特に海外ツアーでしたら、よくあるでしょう。文化も価値観も全く違った人に囲まれるのは、何とも刺激的で楽しい（時には苦勞な）ものです。



ゴーカーナ祭りの鮮やかな山車



ノーヘルは怖いので完全装備

これらのインドでの驚きの度合（特に運転中）を、ツアーでの驚きの度合に例えてみました（表）。

あいにく、今回は仕事ではなく、旅行なので、「えっ?!」という驚きも、焦りに変わることはなく、『郷に行ったら、郷に従え』で、戸惑いはあつつも、違いを楽しもうという心得でいこうと思っています。仕事でも、この位の心の余裕ができればいいのですが…。

文化や宗教、貧困の差による、価値観の違いは、日常生活での照明にも現れていると思います。西インドのほとんどのお店やレストラン、ホテルには、ヒンドゥー教の神々の偶像や絵が祀られています。サイズはさまざまですが、必ずなんらかの灯りがそれらに灯っています。ほとんどがクリスマスツリーライトのような、数色に光るキラキラ照明で、時にはオレンジの白熱灯が一個だけであったり、時には蠟燭のみの場合もあります。日本（仏教、神道）の場合は、仏壇や、祖霊社に蠟燭で火を灯しますが、最近は消防対策も兼ね、電球を代わりに入れている所もちらほら出てきたようです。しかし、クリスマスツリーライトのようなキラキラは、日本の神仏には見たことがありません。それでは、インドの祀り棚に使われる、カラフルなキラキラライトは、一体彼らにとって、どのような意味や効果をもたらすのでしょうか。

そう言えば、昔、アジア全域で活動されている曾我大先生が、こんなようなことをおっしゃっていたのを思い出しました。「発展途上国の人々にとって、鮮やかな色達は、富、自由、祭りの象徴であり、貧しい場所にも、華やかさを与



道路で日向ぼっこする牛たち



ゴアのレストランの祀り棚

えてくれる、精神的に気持ちが明るくなれる、そんな重要な要素をもっているんだ。キラキラチカチカもその一環」と。確かに、ガネーシャやシヴァ神の絵が、不気味にゆらゆらと、カラフルな光の中で踊っているようにも見えなくもない。レストランのスタッフに聞くと、「あんまり深い意味はないんじゃないかな」と、頭を左右に揺らすだけでした。

それでも、今までずっと安っぽいなと軽視していたクリスマスツリーライトが、見る角度と被写体を変えてみると、神秘的に写ることもあるのだなと感じました。

ツアー	インド
仕込み中、上で作業している人がいるのにセーフティーハットを被らない	バイクの運転でヘルメットを被らない
照明卓のディスプレイモニターがない	信号機がない
サスバーを降ろすとき、舞台上に声がけしない	曲がる時も、車線変更も方向指示器を出さない
ゲネプロ中、劇場技術者が舞台上を堂々と横断する	牛が道路を堂々と歩いているか、ど真ん中で日向ぼっこ
どんなに込み入ったサスバーが並んでいても、バーを降ろすスピードを変えない	対向車がいなくても、いなくても、御構いなしに前の車を追い越す
仕込みだろうとリハ中だろうと、ひたすら叫ぶ劇場技術者、特に言語が通じない時は、怒ったように聞こえる	何時でもひたすらクラクションを鳴らしあう。道路から音は決して鳴り止まない
トラスコープのバスケットに人が乗っているのに、その人を乗せたまま、スコープの高さを変えてしまう（ロンドンのとある有名な劇場にて）	夜はフロントライトを点けずに運転する自殺行為に近いバイクが沢山!
あともう1日公演があるのに、劇場側のスケジュールの勘違いで、次の日の朝、来たら照明全部バラされていた（友達がイタリアで本当に体験した、怖いお話）	高速道路で逆走車が猛スピードで向かってくる! 驚きの度合いも、ここまでくると、もう口を開けて「はあ、そうきますか」と受け止めるしかないです